

<日商簿記1級工業簿記ミニテスト14>標準原価計算の基礎

<問題>

当社の大阪工場では製品Xを製造し、標準原価計算制度を採用している。次の資料に基づいて、次の各問に答えなさい。

1. 製品X1個あたりの原価標準

直接材料費 @100円×3kg=300円

直接労務費 @500円×2時間=1,000円

製造間接費 各自推算の事

※製造間接費は直接作業時間を配賦基準としており、年間正常直接作業時間は24,000時間、年間予算額は7,200,000円（うち変動費予算額は2,880,000円）である。なお、固定製造間接費は予算と実際額は同額であった。

2. 生産データ

	製品X	
月初仕掛品	300	(50%)
当月投入	800	
合計	1,100	
月末仕掛品	200	(60%)
完成品	900	

()内の数値は加工進捗度を示す。材料はすべて工程の始点で投入されている。

3. 当月の実際原価

直接材料費 : @110×2,500kg=275,000円

直接労務費 : @480×1,820時間=873,600円

変動製造間接費 : 250,000円

問1

差異分析（能率差異は変動費のみから生じる）を行い、結果を解答欄に記入しなさい。

問2

シングルプラン・修正パーシャルプラン・パーシャルプランにより、仕掛品勘定の記入を行いなさい。

（2級の方はシングルプランとパーシャルプランのみ）

問1 (借方差異には△をつけること)

総差異	△126,600
直接材料費 (価格差異)	△25,000
直接材料費 (数量差異)	△10,000
直接労務費 (賃率差異)	36,400
直接労務費 (時間差異)	△40,000
製造間接費 (予算差異)	△31,600
製造間接費 (能率差異)	△9,600
製造間接費 (操業度差異)	△46,800

問2 (差異勘定はすべて原価差異と記しなさい)

① シングル・プラン

材 料		仕 掛 品	
買掛金 275,000	仕掛品 240,000	前月繰越 330,000	製 品 1,710,000
	原価差異 35,000	材 料 240,000	次月繰越 252,000
<u>275,000</u>	<u>275,000</u>	賃 金 870,000	
		製造間接費 522,000	
		<u>1,962,000</u>	<u>1,962,000</u>

賃 金	
諸 口 873,600	仕掛品 870,000
	原価差異 3,600
<u>873,600</u>	<u>873,600</u>

製 造 間 接 費	
諸 口 610,000	仕掛品 522,000
	88,000
<u>610,000</u>	<u>610,000</u>

② パーシャル・プラン

材 料		仕 掛 品	
買掛金	275,000	仕掛品	275,000
	<u>275,000</u>		<u>275,000</u>
賃 金			
諸口	873,600	仕掛品	873,600
	<u>873,600</u>		<u>873,600</u>
製造間接費			
諸口	610,000	仕掛品	610,000
	<u>610,000</u>		<u>610,000</u>

前月繰越	330,000	製 品	1,710,000
材 料	275,000	次月繰越	252,000
賃 金	873,600	原価差異	126,600
製造間接費	610,000		
	<u>2,088,600</u>		<u>2,088,600</u>

③ 修正パーシャル・プラン

材 料		仕 掛 品	
買掛金	275,000	仕掛品	250,000
	<u>275,000</u>	原価差異	25,000
			<u>275,000</u>
賃 金			
諸口	873,600	仕掛品	910,000
原価差異	36,400		
	<u>910,000</u>		<u>910,000</u>
製造間接費			
諸口	610,000	仕掛品	610,000
	<u>610,000</u>		<u>610,000</u>

前月繰越	330,000	製 品	1,710,000
材 料	250,000	次月繰越	252,000
賃 金	910,000	原価差異	138,000
製造間接費	610,000		
	<u>2,100,000</u>		<u>2,100,000</u>